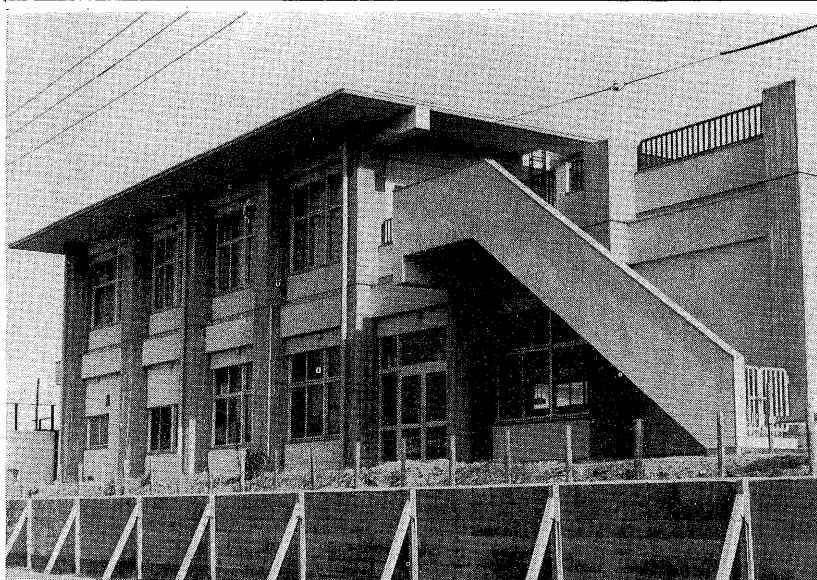


尚和会報

発行所 尚和会
(桜塚高等学校同窓会)
発行責任者 越水ユリ
編集責任者 中村陽子



五十三年七月十五日

待望の同窓会館落成

五十三年七月十五日、未だ星のほてりの残る中、午後六時より、新尚和会館に於て、オープニングパーティが豊中近辺在住の卒業生達の手によって開かれました。

尚和会役員の改選の直後の事として、色々不行届な点があったと存じますが多勢の方々の協力で、無事パーティを終

えさせて頂きました、当日は長い間お目にかゝれなかった恩師も多数参列して下さい、あちらこちらでミニクラス会が持たれ、むし暑い夏の夜に、楽しいおしゃべりの花が咲きました。

多勢の出席で役員さんが、豊中中を走り廻っておすしの追加購入に苦労されました。お



会長就任雑感

越水ユリ

人の命は限りあるものでございませう。その秋が何時か知らないという結構なおかげをもつて私たちは毎日を過させて頂いております。

五十三年度総会において、はからずも会長を受けるというみじめな立場に立たされたとき、何故か冒頭のこと、しみじみと胸のうちにやってきて、いろいろと考えをめぐらせる基盤になったように思っています。

同窓会のありようは、ほんとのところそんなにむずかしいものではなくて、なつかしいと思った時、そこに同窓会があればすんなり入りこめるという感じがいののたろうと考へます。対外的に何かをしななければならぬ団体ではないという事です。心身共に丸ごと青春時代といった時期

に同窓で共に学び、共に唱いに泣き、共に怒り、共に走ったという体験は、友の名前を思いうかべただけでも連帯感がよみがえってくるような気がしますが如何でしょう。高女一期のせいだけではないと思うのですが、……

すんなり入りこめる同窓会というには各卒業期毎に核になる理事の方がおられることが先決だと思われまふ。幸か不幸か前年度からの引き継ぎ事業として会員名簿を発行しなければなりませんので各期毎の理事を会則に従って無理にお願いした次第です。その結果出版社がどんなにがんばっても、各期の理事の方々の努力による成果ほどのものはないという事実が得られました。四百五十名卒業して、四百名ぐらい不明者があつた期の理事が「あと五十名がなかなかわかりません」……桜塚高校卒業生ばんざい!!とさげびたい程の感激でした。五十名の方はそのうちにきつと連絡がくる

と思ひます。努力してもなかなか空白のうまらない期のためにはみんな情報をおくりこみましよう。尚和会役員としての先輩の方々や学校当局の大へんなご尽力により尚和会議室となつて尚和会館は生れかわりました。とりあえずクラス会なり同期会をここで開いてみて下さい。お互いにいろいろの経験を持ち寄るのですから見栄はいりません。実社会での疲れや、痛みを快よくほぐしてくるような会にしたいのだと思います。

時は流れて私もがいつしようにけんめい磨きこんだ二階建の木造校舎は鉄筋四階建のスマートなものになりました。それでも私たち卒業生にとつてはなつかしい母校です。今若さ溢れるばかりの会員のあなたも年を経るにしたがつてそのなつかしさは尚和会というだけでこみあげてくるものがきつとあると思ひます。

●新写植出版KK (上記)
●各期理事 (右表)
●力身康子 (右表)

●多数御出席下さい。

(三) 本校生徒のクラブ活動
(四) その他特に必要と認め
運営委員会により許可さ

に返却すること。
(二) 利用時は
学校事務室へ)

役員改選のお知らせ

五十三年五月の総会に御出席の方々には前木村会長、現越水会長その他副会長の辞任就任の挨拶がございましたが、本来なら五十三年度の会報に役員改選の紹介をなすべき所、今回に持ち越しました、左記に新役員を紹介いたします。

会長 越水 ユリ(女一期)

副会長(五名)
名簿 力身 康子(女二期)
財務 安松 和子(女四期)
広報 中村 陽子(女八期)
総務 真鍋 正一(高三期)
事業 永井博純(高三期)
会計 中村千穂子(高三期)
村上美智子(高五期)
会計監査 北川富美子(女二期)

校内幹事
大江 悦子(女四期)
山本 孟(高三期)
後藤保三(高三期)
馬場文子(女六期)
林田直美(高二六期)

元校長松浦良雄先生

叙勲さる
先生は五十二年十一月三日勲四等に叙せられ、旭日章を拝受されました。

先生は昭和二十七年十月から三十六年三月まで本校校長として力を尽されました。現在お元気で悠々自適の生活を送っております。

顧問

矢野 鈴子(女一期)
塚田 京子(女二期)
木村 益子(女三期)

会長の任を終えて

木村 益子



尚和会の皆様には、お健やかに79年を、お迎えになられた事と存じます。

去年は10年を越す長過ぎた会長の役職を後任の越水ユリ氏に、皆様の祝福と共にお願いした年。同窓会におかれましては、まことに意義のある年を迎え、送った訳でございます。

その後、新会長を中心に、副会長各氏、役員、理事の諸氏が力を合せて、様相もあらたな尚和会館で、会の運営、事業をより積極的に活動されて居られることを伺い、ほんとお祝い申し上げる次第でございます。

それにつけても、実力の足りなかつた私が、それまでこの重責を続け、果し得ましたことは、前副会長の谷田・上田各氏のお力添えがあったこと

以上の他、理事が各期より二名以上選出されています。各期の代表になって頂いた方を別紙にて紹介しますので、住所変更その他の連絡はお申出下さい。

と、わけても現副会長の眞鍋・永井両氏を始めとする5役と、若い会員の助け、"そのお蔭さまで"と誌上をかりて厚く御礼申し上げると共に、お詫びの気持ち一杯でございます。

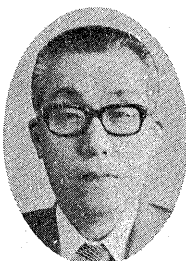
さて、在任中、特に印象深く脳裡に深くさざまれた行事として、母校の30周年・並びに40周年を、各氏の御協力に、盛大に挙行することが出来た事。母校の10数回の卒業式出席をとおして、いまも変わらない先生方の恩情にふれました事。毎年の総会では、"みんなで力を合したら何でも出来るんや"という人のハローニイを学びました事。

こんな暖かい師弟愛・友情を、感銘深くうけると共に、どうかこの尚和会の友の交りと拡がり、大切に今後もはぐくみ育て、まいり度いと願っています。

より一層の尚和会の御発展と、御繁栄を願って、退任の挨拶とさせていただきます。"ほんとにおかげさまで"再びありがとうございます。

尚和会の皆様へ

学校長 山本 俊雄



早いもので本校に來させていたゞいてから二年になるうとしています。その間、いろいろなことがございましたが、尚和会の皆様には、一方ならぬ御支援をいたゞき、誠に有難うございました。

名簿作成の現状とお願い

副会長 力身 康子

昨春尚和会名簿発行のお手伝いをと母校からお声のかかったのを皮切りに、卒業以来三十余年になる母校との距離がぐっと縮まったような日々を過ごしてまいりました。

尚和会会員の総数は高女第一期生を送り出した昭和十七年から第三十七回生(高三十期)の昭和五十三年卒業迄、実に約一万八千名を数える大世帯となっております。

名簿作製の実務は、会員の結婚・就職等による移転に最近の町名変更も加えて、当初の私共素人の想像を遙かに上廻る煩雑さで、以来各期の代表の方々への呼掛け、サンケイリビングの広告等を通じ卒業生の皆様の並々ならぬ御協力を得て、やっと軌道にのった

が、桜塚高校におきましては先輩後輩の交流をはかり、お互いの心が通いあつて、うれしい人間関係が、いついっまでも続きますよう願っております。どうか在校生に對しまして、遠慮のない御助言と御激励を賜りますよう、お願い申し上げます。

(因に山本校長は高女期から高校初期に在職された盛野精一先生の教え子なんだそうです……)

会報発行協力金

「協力頂いた方々」

倉有 中西京 (豊女四) 木場洋子
橋本美智子 (豊女六) 藤本典子
(豊女七) 寺崎弥生 (豊女八) 上
西千代子 藤本真知子 (高二) 山

千五百円
(豊女二) 堀谷明子 入井梓恵
(高三) 長谷川春生 (高八) 春名暢
子 (高二八) 西田さやか

子 山地通夫 (高六) 西田縁子
酒井利恵 熊本清孔 寺辻つや子
(高七) 野村敏子 古矢健夫 大西
千枝子 市川真子 鈴木寿子 日中

新淑子 岩本幸子 (豊女八) 大野
富士子 根上恵美子 井上恒子 阿
部久子 堀口豊子 小島京子 中務
重子 (高一一) 平野啓代 並部裕子



という色付けもあって、会場は熱気で一杯となった

同窓の輪が広がる事を望む。
(高三期 谷田探成記)

に休暇中の合宿の場として大いに使用されてきた。
しかし、大阪府は今春この

予定です。お誘い合わせの上、ぜひご出席下さい。

前略……この私の

高女一期 鳴居羊子

京都のある出版社の人が来て「猫のエッセイ書きませんか」という言葉がきっかけで私は猫の本を書いた。この出版社の人が帰ったとたんに、二十年前に出動途上で撮りためた猫の写真があったのを思い出した。大きなカルピスの空箱を比べると、あの当時の私の友達——靴直し屋のミ、のら猫トラトラ、のら猫の大ボス、タマ……懐しい生き生きとした猫たちが瞳を輝やし、野を跳躍し、木登りし、生を歌歌している。しかし、みんなく死んでしまった。私は追憶のままに大いそぎで猫達のことを書いた。

それは決して由緒ある猫でも何でもない。野良猫であり、雑猫ばかりだったが、みんな自由に駆けまわり、その自由の故に道ゆく私とも対等の友達であった。

原稿はおそろしく早く出来上った。秋のある日、最後の校閲を終えて、あの猫達が美しい本の中におさまるなんて何とうれいのだろうか。彼らは死んじやったけれど私は一人で乾杯しようとうきうきしていた。

そんなある日、その日は祭日だった。私は大きい犬と海岸を散歩した。海岸べりの白い道を横切って、小さいく動物がフラ／＼とやって来た。

白茶の幼ない捨猫だった。泥だらけで、片眼は腫れ、声も出ないほどやぶれかぶれだ。子猫は必死の力で大きな犬の脚にしがみつき、助けを求めた。犬はおどけてびつくり仰天しはね上った。でも犬は私を見上げて、つれてゆくうよと言った。私の手の平に子猫のふるえが伝わってくる。雨上りの朝にいつも捨猫の悲劇がくりかえされる。

私は大急ぎで泥を洗い、ダシジャコとミルクを与える。ほんの二にぎりの食いもので子猫の命は救われ、タオルにくるまれてほっと目をつぶる。しかし一週間ほど小さな命は生死の間をさまよった。私は死の贈物かと心が痛んだ。食べては吐いた。それでも吐いても、また少しでも食べ、命を必死につなぎとめようとしていた。オシッコも一人で、小さい椅子のタオルの上に一人でよじのぼって、じっと目をつぶった。大きな犬は遊んでもらえないので、いら／＼して縫いぐるみの象のおモチヤをヤケクソにふりまわすのを子猫はうつろな目で眺めていた。私は子猫の生きようとする懸命な力に感動していた。かそけき命が、それでも厳然としてそこにあった。

ある日、一匹の小鱼を食べ終ると、パッチリ目をひらいた。



鐘のひびき

高女四期 黒川佐苗

過日 尚和会会議室の初の同窓会に出席させていただき、いましがた後輩諸士の御姿を次々と拝し、その期毎に私の顔にシワを一本一本きざり込まれる想いで、表面ではいとお若げにハシヤイでおりました。が心の中ではドット老け込みゾーとする悪感を振り払い振り払い三十年前の女学生に立ちもどっておりまして。

人生も終点近しに足をふみ入れた今、やっとうすれば人間は幸福になり、成功する

事が出来るのか、又どうすれば失敗し不幸に泣くのか、その原理がパット解ってまいりました。しかし、もうその時には自分に活用するには遅すぎ口惜しさに地駄太を踏んでおります。

人生ってこんなものなのですね。

親切な先人達はそれを後世の人の為に残した教へ導いたりしてくれました。若し若し時には素直に受け入れられないもので、私も若い時踊りが好きで芸界に飛び込みましたが、むつかしい芸と平

行してむつかしい「しきたり」があり、素人の家庭に育った私にはどうしてもなじみず、反発し、自分もみんなとは違ふんだからと弁解し、又それで通って来ましたが、しかしその自分分の発展と、伸びに「待った」がかなり損をした様です。でも幾分かはその気風がしみ込んだのでしよう、結婚しまして普通の家庭生活の交際にその芸界で学んだ心のくばりがプラスとなりスムーズに運びます。普通でいうよく気がつく、と云う事でしょう。

芸界というものは人と人とのつながりで成立してある世界です。人の心を読みその心を傷つけぬ様和やかに交際し、又受けた恩には終世感謝し、むくいるにはどういう風

に休暇中の合宿の場として大いに使用されてきた。
しかし、大阪府は今春この

破壊する権利はないと思います。

そういう思いが、様々な崇り話を生み出してきたのではないのでしょうか。市内のある中学校では、この校内にも塚があるのですが、毎年お祭りを欠かさないでいると聞きます。私たちは古代から伝えられたものを未来へ送り伝える必要が（もちろん何もかも全部ではありません）あるのではないのでしょうか。

校内の北東の隅にある塚は、どうか壊さないでほしい。そして生徒達が木陰で話し合ったり弁当を食べたりしながら、ふと古代の息吹を感じることが出来るような、そんな存在としていつまでも残しておいてほしいと思います。

高28期 持元 宏

桜塚高校には一つの塚があります。場所は昔の恵風苑の東の隅。そして色々な崇り話も伝わっています。そのうち一つは何事もなく解決し、運動場になりました。そして創立以来の鎮魂の塚はまだ残っています。

私も桜塚高校の建っているあたりは、古来桜塚古墳群として大小三十六の塚が点在していたといわれます。そして岡町駅の西、大石塚古墳は史蹟公園になる予定だそうです。私は古墳の崇りを信じる者ではありませんが、千年以上も伝え続けられた古代の意志といふものを、現代人は

東京三期会ルポ

高三期 中村健児

昨秋落葉が風に舞い、菊、蕪、る十一月二十五日東京新宿で第六回？東京三期会が開かれ、英語の高橋先生をお迎えして、四十三名(男子十八名女子二十五名)が集い、懐かしい思い出話に話を花を咲かせました。東京三期会は、当初東京在住の女子数名が時折集って、旧交を暖めて居りましたものを十年程前に石井永氏が持ち前の嗅覚で嗅ぎつけ、或る日黒一点で参加し非常に歓迎されたのを機に、其の後広く全員に呼びかけ、男女合同の東京三期会に発展させたものであり、最近ではほぼ年中行事として定着し、毎年秋に開かれ、然も参加者も年々増え、大変喜ばしい事だと思つて居ります。又三年前から毎年恩師を御一人づつお迎えする事にし、五十二年には井上先生(英語)五十一年には倉田先生(国語)においていただきました。

次会、十一時より銀座のパブリック House での四ツ会、〇時より、六本木の深夜クラブ「プラス純」で五次会と延々と続き、深夜三時頃、総ての行事を終りました。さすが、最終コース迄参加した強者は三名(氏名不詳)でしたが三次会迄は約三十名(内女性十八名)が参加し夫々に良老年老女振りを遺憾なく發揮した様です。一次会では、先づ高橋先生の御挨拶に初まり、続いて、先生がこよなく愛して居られる詩「Lucy poems」の「Lucy poems」より一節をわざわざ印刷持参して来られ、朗読して下さいました。(当時のテキストブック Long Long ago...より更に一段と清らかな発音で一層の感情を込めて)当時の優等生でも今は和訳無理と思われたのでしよう、わざわざ訳文もつけて下さいました。それによりますと、昔の乙女の面影を偲ぶ...美しい詩の一節のようでした。

又各人の自己紹介では、「朝起きたら先づはサンスターをどうぞ!!」(A氏)「ポーナスはD銀行にどうぞ!!」(Y氏)「奥様・お嬢様のファッションの御相談は当社にどうぞ!!」(A氏)「お子様のスポーツ用品は(T氏)等々男性が仕事熱心の一面をのぞかせると、女性軍も負けては居らず「宅の主人は何々銀行ですのぞ!!」と「ナスはこちらへどうぞ!!」と「主人はカントリークラブをやつて居りますので、ゴルフの会員になられる際にはどうぞ!!」等仲々の良妻賢母振りを發揮する場面もありました。三次会の頃には、アルコイルも程よくまわり、全員かなりリラックスして、文部省のお役人さんの「宇宙艦艦大和」の歌を初め、各人持ち前の自慢の喉を披露したり、又H氏のムードポピュラーのピアノ演奏等もあり、楽しい一刻もあつた云う間に過ぎ去りました。

そして又来年の再会を固く約し、夫々の家路へと、夜更けの銀座のビルの谷間に名残りを惜しみながら消えて行きました。それにしても世間一般に45才の女性と云えばかなり「おばさん」と云う感じがするものですが、吾が桜塚三期の女性に限り、何時会つても、かつて恵風、恩露の園を駆け廻つていた当時の乙女と少しも変らぬ、若さと美貌を兼ね備え、三期生男子の誇りに感じて居る次第です。さて、お世辞も、その位にして、当日の報告を終わります。来年は更に多くのお方にお集り載ります様紙上よりお願い致します。

(尚今回の幹事はノンちゃん、アイ子ちゃん、ポーコ、どじよう四名でした。)

高三期 赤崎 豊

尚和会の皆様、しばらくでございませう。皆様方には、御健康で各方面に於て御活躍のこととてございませう。早いもので、商社(兼松)へ就職の決まって居りました。

私に、家庭科の坂根先生、内尾先生より、吉田先生の奥様の後任として、学校に残つてもうえなないものかとお誘ひがあり、私等に務まるものかしらと不安に思ひ乍ら、お引受け致しまして以来、三十数年間以上も経つてしまひ、先生方には何かとお目暮る事が多々ありました事と存じますが、過分に可愛がついていただき、母校桜塚の温床から離れる事なく、学生生活の延長の様に勤めさせていたゞき私は本当に果報者でございませう。只今では旧校舎はすっかり消えてしまひまして、立派な鉄筋四階建ての新校舎に生まれ変わ、卒業生の方にお会いしますと、やはり昔の木造校舎がなつかしく、新校舎はどのうもと言うお声をよく聞きます。私共も最初の内は仲々に馴染めませんでした、今ではとても設備が良いため、各教科別の準備室・実験室・講義室も完備して居り、中でも特別教室の視聴覚室は最高の設備の粋を凝らしてあり、図書館・作法室等は仲々落ち着いた、ただずまいでございませう。家庭科も被服教室・調理教室共にとても明るく、実習もスムーズに出来、現在私と同期前後の方々のお嬢様方も二・三居られますが、自分の年令も忘れて調理室での実習を、楽しんで居ります。以前は二時間連続の実習でしたが今日此の頃は一時間、つまり四時限目から昼休みにかけての、スピード実習、若い年頃の生徒さんの中に入つて若さを満喫しながら頑張つて居ります。どうぞ新校舎を敬遠なさらずに折りにふれて御来校下さいませう。お待ち致して居ります。

末筆乍ら皆様方の御多幸を御祈り申し上げます。

高校七期 同窓会だより

高七期 中野直行

昭和三十年に卒業して以来、実に二十三年ぶりに初めての高校七期同窓会を十一月十九日高麗橋、三越前のバブパーティールーム、プラッツアにて開催した。定刻正午前にはすでに約百名の多士面々が、ぞくぞくと集まり、二十年ぶりの再会を喜び合う和やかな交歓風景があらにこちらに見られ、川崎氏の司会で、長老の榎並先生のご挨拶と、一同ビールの乾杯後、卓上に並んだ数々の料理で交歓会食が始まった。会場にはエレクトーンの生演奏で調子良く酔える者、恩師を困んで若き高校時代を懐しむ者、名刺を交換する者、ワインを交し無礼講なる罵声を発しハシヤぐ者、桜塚時代の感激に吾を忘れるひとときを過ぎた。集う同窓の中に遠く東は東京から近藤氏、愛知から瀬尻氏が、西は九州から久枝氏、広島から吉中氏が馳せ参じて、先生方七名の出席を始め男女総勢百十三名と云う盛況に至つた。終始歓談の尽きぬまま定刻三時もかなり過ぎて次回を約し、各クラス別の二次会にと散会した。後日、私のところに二次会

の結果報告が有り、何と、最高四次会持合せの聖徳太子が無くなるまで、別れを惜んだクラスがあり、数名の女傑も最後までリタイヤしなかつた事を聞いて驚いた次第である。

●出席の先生方は次の通り
阪本先生、水田先生、近松先生、井上先生、坂根先生、榎並先生、吉本先生、関東地方の七期同窓生が、現在四十余名名の在住者があり此れを契機に、東京での同期生交友の輪を広げるため、七期東京支部を是非発足させたい、と松島三郎、永井英男両氏からの強い要望が有りましたので、関東地区在住の方、是非左記のところまで御一報下さい。

千葉県柏市布施新町二ノ十六
TEL 0471 33420
上尾市緑ヶ丘五一一一九
〒362 永井英男

(追記)尚和会の皆さん! 今回久しぶりに新名簿が誕生するのを機会に、各期の同窓会、地方の支部会、等を企画され、同窓生相互の連帯と、親睦を高め、有意義なる尚和会の飛躍発展を計るうでは有りませんか!!

高七、第一回同期会報告
去る53年11月19日、多数参加あり、会員一一名、先生七名、計一十九名盛会のうちに終了したこと報告致します。

尚、次回開催の都合もありりますので、開催時期の希望をお知らせ下さい。

幹事 川崎充康

高29期 田中ひとみ

私が桜塚に入学した十五歳の春、私はいったい何を考え

ない、乱れた生活の中で、義務とか責任において、私は滅茶苦茶でした。ながら族が多

その時、胸がきゅつとしめつけられる思いがして、悲しかった。人は急に大人になるのか、三無主義を決め込んでいたのか、などと切実に思うのです。私ですが、今日ここを訪れ、

戦争という教育を変え人間をのちを中ける同様に扱う、一つの「大義名分」のた

名東市ヒル3丁のナイトレ
トラン「REGENE」で二次会
九時より銀座の高級クラブ「サ
ロンドレーブ」借り切りで三

ナフにこちらへとうそんじと
か、主人はカントリークラブ
をやつて居りますので、ゴル
フの会員になられる際にはど

便居て全方正に於て後援願
ことでございましょう。
早いもので、商社(兼松)
へ就職の決まつて居りました

此の塚に一限開、つまり四限
限目から昼休みにかけての、
スピード実習、若い年頃の生
徒さんの中に入って若さを満

の足きめまます冠三限もかな
り過ぎて次回を約し、各クラ
ス別の二次会にと散会した。
後日、私のところに二次会

尚、次回開催の都合もあ
りますので、開催時期の
希望をお知らせ下さい。
幹事 川崎充康

高2期 田中ひとみ

私が桜塚に入学した十五歳
の春、私はいったい何を考
えていたでしょう。校内は、名
前のとおり桜の花も、もえ
ぎ色の校舎も、春の日差しを
浴びて美しかった。そして私
は、新鮮な春の風に揺られて、
誇らしく幸せだった。今
はもう頭の中で想像するしか
ない。あの木造校舎で私が一
番気に入ったのは、丸窓のあ
る階段の踊り場。そこからは
藤棚や、日本庭園が見えまし
た。それに図書館。私はそこ
で、友人と宝塚の古いアルバ
ムをみました。休み時間にな
るとここへ来て、読むでもな
く本棚を見て歩きながら、あ
こがれとあどけない笑いに満
ちた、古きよき時代の女学校
生活を想いました。しかしこ
んなのんびりムードの一年は
過ぎ去り、二年生から、私た
ちは鉄筋の校舎に移りました。
その時、大移転作業を終えた
あと、国語の先生が、二十九
期生のことはこういうことが
あったから、きつとよく覚え
ているだろうといわれました。
けれど私にとって、この冷たい
鉄筋校舎は現実世界の象徴でし
た。にもかかわらず私たちは若
いので、外面上は、なんなくこ
の新しい環境を受け入れました。
こうして徐々に受験体制に入
っていったのです。私は受験以
外の学科は、単位を落さない
程度にさばりました。それが
良かったのか、悪かったのか
わかりません。おそらく両方
でしょう。家にいるからとい
って遊んでいるわけにはいか

ない、乱れた生活の中で、義
務とか責任において、私は滅
茶苦茶でした。ながら族が多
いなかで、一つのことしかで
きない無器用な私は、うまく
立ち回れなくて、みじめで
した。ある体育の時間、私は
校庭のすみで、もう十七才な
んだ。もう十七才なんだと、
繰り返して、まるで十八才に
なったら自分はおわりだと言
わんばかりだったことがあり
ました。先生は不審な顔をしま
したが、みんなはわかってく
れたと思います。というのは、
そのころ私が熱狂していた「
ビートルズ」の歌に、十七才の
女の子が子でくる歌があつて、
その女の子が自由のびのび
していて、しかも恋をしてい
るということが、私を十七才
という限られた時間の中で焦
らせていたのです。青い体
をして私を追ってくるものさ
えなかったら、そう思つてく
やしがりました。

はたして二十才になって、
私は確かに変りました。あれ
ほどいやだったこの年齢を迎
えて、またモラトリウム人間
なるものの出現する中で、私
はもう少女と呼ばれることを
欲しません。こんなことを
ことさら言うのは、母親に子
供扱いされなくなった十六才、
芥川が十六才からの自分には
責任が持てるといった、自我
の確立期に、自分は少女であ
るといふ、この基盤がぐらつ
き始め、それは二十才の今ま
で続いていたからです。母親
との分離、他人の思想を受け
入れなければならなくなつた

その時、胸がきゅつとしめつ
けられる思いがして、悲しか
った。人は急に大人になるの
ではなく、それは少しずつ準
備されるのです。あの時
のよるめいた足で、今また立
つているのが不思議です。だ
からといって、あの少女期を
忘れられるほど私は大人では
決つてありません。私の心
のどこかに、あの十五、十六、
十七才をとり戻したい、もつ
と何かすばらしいものでうめ
たかつたと思うのです。もつ
と体育祭では頑張つて走りた
かつたとか、もつとたくさん
優しい言葉を言いたかつた
か、そう、もつとあの時、苦
しんでいれば、どうして私は

三無主義を決め込んでいたの
か、などと切実に思うのです。
すばらしいことといつたけれ
ど、こんなあたりまえのこと
なんです。そして、実はそれ
が一番大切なことだったんで
すね。そして今、いくら私が
望んでも、この悔いある青春
のアルバムは閉じられたので
す。

私はもうビートルズも、こ
の頃聞きません。とくに彼ら
が十七、十八才のころのは、
悲しいけれど、彼らが十七、
十八才感じたものは、やはり
十七、十八の少年、少女が感
じるものだと思うからです。
そして二十才の私には、二十
才の思いがあります。

戦争展

平和へのねがい

「PTAだより」より

私たち、桜塚高校の教職員有志は、今年の文化祭の一環と
して、戦争展を開きました。
桜塚高校は、旧豊中高女校のとき、生徒動員で七名の少女の
いのちを奪われ、多数の負傷者を出しました。しかし、その
ときの記録は、終戦とともに失われ、卒業生有志が、生徒動
員の記録「ほむら野に立つ」を出版したのですが、その記念
として学校へ贈られたブロンズの少女像「ほむら野」をもつ
本校としては、遅すぎたといえるかも知れません。
PTA・同窓会・教職員の方々の御厚意で、戦時中の資料
が三百四十点も集まり、大へん意義深い展示になりましたこ
とを感謝しております。

集まったアンケートのほとんどは、資料を通して、戦争の
むき、恐ろしさを痛感し、平和へのねがいを新たにしたと
いう趣旨のものであり、胸つたれる感想が、卒業生からも多
く寄せられたことは、何よりうれしいことでした。
紙面の都合で、全部を紹介できないのが残念です。

戦争という教育を変え人
間のいのちを虫けら同様に扱
う、一つの「大義名分」のた
めに、数百万のいのちが奪わ
れ、今なお苦しんでいる人々
がいることを、戦争を知らない
私たちが忘れてはならない
と思う。この貴重な資料を、
また別の機会に、広く公開す
べきではないでしょうか。

「戦争を知らない世代」と
いうことばに逃げこんでいた
私ですが、今日ここを訪れ、
はじめて痛烈に戦争を感じま
した。
祖父や父母が戦争の思い
出話などすると、「あまた
か」とうるさく思っていました
が、これからはもうそんな
ことはできません。

暴力事件の多い現在、その
風潮が戦争につながるや
も限りません。これから真剣
に戦争について考えたいと思
います。

私の田舎にも、竹槍をもつ
てゲートルを巻いた若い兵隊
さんが三名ぐらい離れににと
まっています。私が小学校
一年生の時のことでした。思
えば私の子供と同じ年代です。
シラミがいっぱいで、風呂も
ない日々でした。

私の祖父は陸軍大佐、父は
陸軍大尉でした。
なぜか、この二人は、戦争
について語ったことがありま
せん。語らないことが、何か
を語っているような気がします。

有事立法が出されている今、
私たち母親がどう生きなけれ
ばならないか、真剣に考える
時だと思っています。
あの時代にも、戦争に反対
していた人たちが、勇気ある人
たちがいいたことを知り、戦争
反対の声をひろめていきたい
と思います。

戦争展入場者
二日間、約一五〇〇
〇アンケート 六四三
高校生 四二七
小中学生 七六
大人 一三一
〇展示板をつくる材料と
して、卒業生、森田司
朗さん(高校八期)喜
八郎さん(高校十三期)
のご兄弟から、ベニヤ
板一〇枚、角材二〇本
を寄贈いただきました
たことを、併せて紹
介いたします。

(47歳 女子)
(21歳 女子)
(40歳 女子)
(19歳 女子)
(25歳 女子)

新尚和会館開館記念挨拶

副会長 真鍋 正一

会員の皆様の強力な援助で盛大にとり行なわれた母校四〇周年の式典のあとの残された尚和会の課題は、会館問題であります。このテーマは、既に三〇周年に際し寄付をお願いしてあったのですが、数年を経過して百万円余を集めて、土地問題その他の難題をかかえたまま、目標額に達せず、手つかずで今日に至っていました。

報一五号（昭和四二年一〇月一日）に、若松理事より簡単に紹介されている通り、昭和三五年に維持費の負担問題などから府に寄付されてしまっていた。そして、今度校舎の建て替えに伴って敷地ごと売却処分されました。この様な経過の中で、新校舎建築計画のはじめから、三代にわたる母校校長先生らの御尽力により、本来の教育施設に加える形で、会館機能

を備えたものが追及され、ようやく食堂の上に新尚和会館を確保していただきました。「尚和会議室」がその正式の名称です。

この新会館は、勿論学校の施設ですが、学校及び尚和会より構成する運営委員会により管理運営することになっており、学校の事務室で窓口を担当していただくことになりました。利用は、尚和会会員本校教職員及び生徒に認められ、旧会館も、様々な経過をと

れますので、同期会等の利用は、歓迎されるでしょう。会館問題が、このように進展する見通しが立ったときに、先に申上げた三〇周年記念事業としての会館設立寄金は、この新会館の内部設備に活用するのが最適であると考えました。即ち、会館の建設は、土地問題と金額の点でほぼ不可能と判断したからです。この点では、本来の趣旨に従って御寄付いただいた会員の皆様にお詫び申し上げます。と同時に、外がわと中味の違いはあっても、新会館として活用した点で御許しをいただきたいと思ひます。

同窓会館今昔

野曾原 斌（元教諭）

つて、多面的に利用されて来ていました。同じ様に新会館も有効に活用したいと考えます。学校と調整をとりながら、ば幸いです。

多用化することになると思われますが、会員の皆様から、積極的な御提言をいただければ幸いです。

同窓会館は、本校の旧木造校舎完成後同じ業者によつて、今の北校塚三丁目六番五号の地に建てられた。そこには専攻科が置かれ、男女共学後は一時補習科が設置され、大学進学のための教育がなされた。本校の同窓会である尚和会はここを根拠に大いに活動し、理事会が開かれたり、会報発行等も行なわれた。階下には幾つもの部屋があり、戦災で家を失われた先生、或いは遠方から赴任された先生方の寮としても役立てられたものである。

府有財産を競売に付し、三井不動産の所有となり、既に奥田組によつて建物は撤去され、整地も終了、跡にはマンションの建設が予定されているという事です。

一方、本年に至つて食堂が生徒通用門の北側に建てられた。従来の講堂下のあの暗い陰気な食堂とは打ってかわつて、極めて明るい、衛生的でしかも便利に出来ており、生徒達も喜んで大いに利用している。

この食堂の二階には立派な広い部屋があり、新たな同窓会館として尚和会活動の場となっている。部屋の隣には人工芝の敷かれた広いベランダもあり、何かと便利に出来ている。

ところで、この土地は本校卒業生の父兄良本敬太郎氏の所有であったが、話し合いの結果女学校時代の農業実習地と無償交換がなされ、名実共に同窓会の所有となった。しかし管理上の理由から昭和三十五年に土地建物共に大阪府に寄附された。そして、正式に校塚高校に管理をゆだねられた。それからは生徒諸君の茶道部・箏曲部・華道部等のクラブ活動の場となり、更に休暇中の合宿の場として大いに使用されてきた。

しかし、大阪府は今春この

オープニングパーティ盛会!!



祝尚和会館オープンパーティ

想い出多い木造校舎の撤去と共に、我々同窓生が待ちに待った、新尚和会館が、場所も便利な校内敷地に移つて、その名も仮称なれど「尚和会議室」と生まれかわった。かつての生徒通用門前に鉄筋二階建ての尚和会館竣工を祝つて、七月十五日、夕刻六時開会に集った同窓生は、来賓の先生方を入れてざつと二百名。むしろ暑い真夏の夜によくも集ったものだと思ひに感激した。

越水新会長、山本校長の挨拶に次いで、真鍋副会長の会館建設に至つた経過報告があり、更に元校長で、現豊中市教育長の北原先生の発声で乾杯、アマチュアバンドの演奏という色付けもあつて、会場は熱気一杯となつた。

僅か三百平方メートルの会場に、イスとテーブルをぎっしりと並べた所へ、約二百人の同窓生が集つた為、クローラーのない部屋は至る所でお祝いのうちわが大活躍だった。更に会場より溢れた者はきれいな人口芝の敷きつめられたベランダに出て、ミニ同窓会を開いていた。一階の食堂から用意されたおすしやおードブル、ビール、ジュース等も余りの暑さのせいかわりきり今一つだったが、バンドのパックで有志が仮設舞台で歌を歌つたり、結構楽しんで終つた時刻は十時頃。

それにしても新しい同窓会室が誕生したので。同期会、クラス会等に大いに利用され同窓の輪が広がる事を望む。
(高三期 谷田探成記)

前略……この頃の私

た子猫はびよんと飛び上つた。治つた。家じゅうみんながびよんと飛び上つた。犬は自分

猫をなめまわした。やっぱり猫の本ができて、よい贈物を授かつたわけだ。

恵風の塚

高28期 持元 宏

破壊する権利はないと思ひます。そういう思いが、様々な崇

として力を尽されました。
現在お元気で悠々自適の生活を送っております。

の重責を続け、果し得ましたことは、前副会長の谷田・上田各氏のお力添えがあったこと

挨拶とさせていただきます。
「ほんとにおかげさまで」再びありがとうございます。

正門や周囲の塀も同時に完成いたします。五月末には、プールが体育館の西側に完工し

リビングの広告等を通じ卒業生の皆様の並々ならぬ御協力を得て、やっと軌道にのった

の発行を目指して、この上共の御協力を誌上を借りてお願い申し上げます。

会報発行協力金

ご協力頂いた方々

「四十周年記念募金」

追加と訂正

（記載もれ）

四十周年記念募金の情報欄に、以下の通り記載もれがございました。おわびして追加いたします。

会報発行協力金

- （敬称略）
- 二万円（高）東城順一（豊女）
（豊女）塩脇愛子 五千元（豊女）
（榎本泉 二千元（豊女） 塩谷明子
在間甫子 吉村峰子（豊女）
（滋谷佐和子（高）細川富美恵
岡本秀子 沢田貞子 菊地英美 杉村光枝
- （訂正）
- 三期
七面最下段（正）
（誤）
小倉澄子 小倉恒子 阿部揚子
沢田恒子 門 律子（連名）
・なお、前回会報四三三、深田幸子さんは二十回生とありますが、高校二十八期生の誤りですので訂正いたします。
- （追加）5・17・18到着分
五千元（豊女）森山和子（高）
（二）森山存 二千元（豊女）近等子（豊女）長岡郁江（豊女）
河合静子 石黒純子（豊女）
今治礼子 岩本幸子
- 三万円
（高）三沢一弘
（高）三ツ矢喜代子
（豊女）松田祝三（高）桑野英治
（高）太田裕子（豊女）桐口清子（豊女）永井徳子（豊女）荒井佐子 村上文字 登代子（豊女）柴田光子（豊女）池田幸子（高）吉本登久子（高）岩万喜恵子 中宮時男江坂孝子 上島康弘 釜谷行蔵（高）花井健光 谷口明子（高）宇野美智子（高）西田明子 門田千枝子（高）高木和子 川崎充康（高）坂元寿子（高）川田俊昭（高）吉本緑（高）藤原幸子
（高）松岡和美 三千元
（豊女）進藤治子（豊女）柴田幸子
（豊女）高木春子（豊女）板

会報協力金のお願い

副会長 安松 和子

会報協力金は、会報発行の財源になります。

会員相互の親睦、同期会の案内、情報交換等に活用されますので、協力下さい。

各期の集まりに協力金を集めて頂いて、まともに入金下さっても結構です。協力金は一口五百円です。毎年永くお納め下さるようお願い致します。

- 倉有 中西京（豊女）木場洋子
橋本美智子（豊女）藤本典子
（豊女）寺崎弥生（豊女）上西千代子 藤本真知子（高）山西信子（高）三木喜久子（高）三橋 守 真鍋正一 松原喜代子 藤田嗣（高）岩波栄子（高）松原素子（高）辻有子（高）木梨順生（高）飯沼寛子（高）松尾恵子（高）飯沼寛子（高）西沢光一（高）八幡健一（定）上田孝彦
（豊女）鶴岡律子（高）脇野俊子 広田智恵子（高）島村敏夫
（豊女）吉守峰子 佐々木千鶴子 橋本藏 高見沢綾子 酒井嘉寿子 神原妙子（豊女）伊関美智子 岡田良子 辻井幸子 石井照子 眞子 水谷美幸 森川和子 桑山志摩子（豊女）前田康子 平山美津子 井上和子（豊女）谷沢和子 山岡喜代子 西川良子 比叡寿子（豊女）島田陽子 古澤純子（豊女）松山滋子 岡嶋宣佐子 南枝康子（豊女）中村澄子 山本恵美子 蔵所英子 城倉都子 生駒昌子 菱田博子 矢野絹枝 黒河内順子（高）堤純子（高）中村健児 中塚敬子 春日何珠恵 萬陽子 山脇千代子（高）山本一子 大迫昌子 内田章子 生島英子（高）多崎貞子 和氣伸子（高）岩瀬光子 石田美恵子 松島三郎 廣本敦子（高）上村玲子（高）松岡英之 崎守男（高）岩井民子（高）持丸千恵子（高）大畑賀代子（高）平田美紗子（高）奥野孝子 坂田太郎 青山由子（高）藤田啓子（高）丹羽のり子（高）深田幸子（高）伊根とも子 吉岡恵二（高）久保行義 池上千鶴子（高）北之坊公昭（高）日野登史子 加藤鉄男 玉置秀司 綿本博行（定）加藤武司（定）紅山英世（定）八幡
- 千五百円
（豊女）塩谷明子 入井祥恵（高）長谷川春生（高）春名暢子（高）西田さやか
（豊女）石田美津子 越水ゆり 高永淑子 吉里智恵子 中村徳子 阿曾久子 関美穂子 榎本内藤 純子 清水美子 川本幸子 山下寛子（豊女）力康康子 山口恭子 中森よび 西岡美智子 近田喜久子 樽谷君子 角山和子 宮田栄子 清水弘子 堀田清子 森田道子（豊女）吉里泰子 土谷和子 山口義子 吉澤幸子 竹中子 佐藤美代子 岩田美和子（豊女）安松和子 岩本裕子 鳴川道子 大江悦子 岡部慶子 中野昭子 佐藤泰子 林美沙子 合原正枝 植林孝（豊女）菅原秋子 栗田美智子 井上敏子 関子浩子 松田幸子 土井富士江 荒木真智子 北村好子 森田安子 奥野信美（豊女）若林千鶴子 柳本芳子 川畑博子 汐月和子（豊女）芝山敬子 今治礼子 玉木園枝 加藤好子 佐藤マサ子 竹内三知子 間嶋紀子 藤井妙子 渋谷和代 今木朝子（豊女）吉田富貴子 石田芳江 松本喜代子 阪口貞子 三俣郁子 沼田英子 高橋重子 信岡重子 成川敦子 山岡和子 櫻井尚子 森田光子 前田邦子 江見香苗 風早裕子（高）安達良子 北村登美子 宮本美智子 山本美智子 田中寛子 原和子 津村芳子（高）乗竹弘子 齊藤操 花井登志子 関原澄子 吉井町子（高）本田陽子 山口洋子 辰巳加陽子 藤林咲子 今泉香苗 大隅康子 星田光子 竹中淳子 円洋子 川村美紗子 藤井幸子 岡田昌子 飯倉綾 谷田保成 山崎千郎 新内和子 山本美智子 高木慶子 伊原啓子 駒田貴久子 宮本須賀子 今井和子 山本孟 井ノ口美代子 星田充子 吉富良雄（高）篠崎門矢克己 福岡美登利 川上緒子 大田昌子 川尾勝美 須賀野朝子 樋口愛子（高）村上美智子 豊洲俊
- 子 山地通夫（高）西田総子 酒井利恵 熊本清孔 寺辻つや子（高）市川道子 古矢健夫 大西千枝子 市川道子 鈴木寿子 田中弘子 安中延隆 久原裕子 倉田和明 小松良子 柳田和子 松尾千恵子 有光重文（高）富田康子 川島玲子 浜村恵子 小北恭子 岡部広文 杉本憲治（高）倉内知恵子 門河浩子 清洲洲夫（高）大橋恵子 小林謙一（高）本田英紀 坂井孝彦 太田妙子 竹島護 鎌本俊彦 新谷栄児子（高）二田田翠 津村瑛子 武村須美子（高）松村みさ（高）高木千代子 藤紀代子 辻本俊子 鈴木千代子（高）大城美智子 渡辺社（高）井上秀美 山本美博 井上百合（高）千田芳恵（高）小泉はるみ 村田秀一（高）小泉田圭子（高）土肥誠 稲葉智子 後藤保一（高）飛松清美（高）若松祥子 小林義和 上田郁雄（高）山本総一 居初順子 小立サチ子 山本義一（高）中村茂之 竹家義治 浜本隆司（高）榎敏孝 伊豆朋子 藤本幸子 高野一彦 植田裕幸（高）片山彰子 上高俊一 高岡良平（高）吉岡ゆう子（高）中阪安一（定）花田治雄
- 五百円
（豊女）末藤敏子 樋口由貴恵 松永恵美子 根本君子 中島聡子 前田澄子 蛭子美恵子 北垣富子 安原愛子 藤本一子 高橋弥早子（豊女）上脇真佐子 松原美代子 神保和子 君塚節子 橋口文乃 照内ツツ子 小串まよ子 小林初枝 高橋冬代子（豊女）小倉澄子 鳴海靖子 和田啓（豊女）佐藤有紀子 石川雅子 鷺越昭子 酒井百合子 藤原秀子 山下鶴子 谷谷晴子 松尾昭子 山本千鶴子 浜田尚代 吉田万喜子 村上那（豊女）室安安子 和氣恭子 矢野愛子（豊女）河合静子 喜多端子 江原和子 出羽千恵（豊女）野崎百合子 宮川徳子 平井郁子 山田裕子 河内洋子 広瀬知子 和田英子 星野清子 矢萩隆子 上田操

原稿募集

皆様からの原稿をお待ちして居ります。
（四〇〇字詰二枚程度）

送り先
山本孟先生迄

品 目	数量	期・氏名
ピ ア ノ	1	高 女 一 期
ワ ゴ ン	1	〃
傘 立 て	2	〃
扁 額	1	高 女 二 期
花 び ん	1	高 女 四 期
花 台	1	〃
ガスストーブ	1	高 女 五 期
フロア扇風機	1	高 校 二 期
〃 扇風機	1	高 校 三 期
つ い 立 て	1	高 校 四 期
ガスレンジ	1	高 校 十 二 期
洋 画	1	鶴 崎 先 生
洋 画	2	鴨 居 洋 子
書 額	1	佐 藤 美 代 子
陶 板 画	1	藤 井 妙 子
写 真	2	関 野 フォトサロン